

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501258		
法人名	有限会社 ラピネス		
事業所名	グループホーム すずらん荘		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条5丁目5番25号		
自己評価作成日	平成25年1月23日	評価結果市町村受理日	平成25年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・町内行事への積極的な取り組みやご家族を交えてのホーム行事など人と触れ合う場面を少しでも多くもってもらい、日々の生活に張りをもたせられるような関わりに努めている。
 ・地域の消防団の方と定期的な研修や防災訓練を行い、緊急時に焦らず、迅速、的確な行動がとれるような体制を築くよう心掛けている。
 ・今年度より看取り体制を構築し、ご家族の希望に沿えるようなケアの幅、質の拡大に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170501258-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 2月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点の一つは、平均介護度4.3の高い利用者の暮らす1ユニットのホームですが、来訪者が驚きを見せる穏やかな雰囲気の中、利用者それぞれの思い思いの落ち着いた暮らしを見ることが出来ます。ホーム理念を「笑和」と集約した高度に洗練された職員のスキルによって、利用者の暮らしの中に和やかな笑いが醸成されています。次に2ヵ月に1度発行されるお便り「すずらんだより」の内容が素晴らしいことです。家族会の開催の様子、恒例の家族を交えたクリスマス会、消防訓練の様子、特に新入職員と異動の内容など細やかな記載があり、末尾には利用者一人ひとりの様子を知らせる便りが記されるなど、家族の望む内容が豊富に見ることが出来ます。次にはホームの居心地の良さです。大きな住宅を改装して作られていますが、畳の座敷と広がりリビングと食堂には旧住宅の天井や照明が点り、落ち着いた雰囲気をかもし出しており、和らいだ空間には再度訪れたいとなります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を玄関、事務所に掲示し、毎月曜日に唱和し、共有を図っている。今年度よりホーム理念を簡略化し、わかりやすいものへ変更したことで職員の理解が深まり、日常のケアへ実践している。	ホーム全体の「笑いと和み」を追求した理念は、リビングで、また、食事時に良く実践されている様子を見ることができます。ホームの理念がこのように身近で利用者を包みながら暮らしを豊かにしている様子に来訪者を驚かせています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており町内の行事へ積極的に参加している。近隣の方々には顔を合わせると挨拶をし、日常会話をする間柄になっている。冬場は除雪支援をしており、お礼にホームへ立ち寄ってくれることがある。	職員はホーム内だけに止まらず、近隣の住民とも積極的に交流を進めています。利用者との散歩では住民からも声かけがあり楽しい雰囲気生まれています。冬季間では除雪に苦慮している近隣の状況に職員は進んでホーム除雪機で支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議の中で地域の皆さまへ紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に開催。地域包括支援センターの職員、民生委員、町内会長、ご家族等幅広く参加頂いている。ホームで行ったケアや取り組みを紹介し、意見も多岐にわたりいただいております。議題もマンネリ化せず実施できている。参加できないご家族へは議事録を配布。	昨年の課題でもある会議の議事録を家族の下に送り、家族との連携を深める取り組みは実行されつつありますが、ホームの行事に合わせた家族会の出席は多くなっていません。今後は会議のマンネリ化を防ぎつつ、魅力のある内容を講じながら家族と共に会議を進めようと検討されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月包括センターへ訪問し、事業所のお便りを配布。その際に情報交換等行うとともに、災害時の受け入れ体制や研修の開催等について話し合いをしている。	地域包括支援センターを通じた行政との連携は、ホーム状況を知っていただく資料を提供しながら連携に努めています。これからは市の担当者とも情報の交換を密にしながら、協力関係を構築しようとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、今後においてもしないという気持ちを持ち、ケアにあたっている。また、内部研修や日常的な話し合いを通じて周知徹底を図っている	昼間は玄関の施錠がなく利用者も自由に外に出かける様子が見られ、職員はそれとなく同行して満足感を与えるなど高度な支援を見ることができます。内部研修では「虐待防止に関わる案件」と共に身体拘束のないケアについて学びながら、暮らしの中で実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を12月に実施。改めて虐待防止を訴えかけ、細かいケアの中でも声掛け等留意するよう周知を図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人とは随時意見交換を行っている。また、日常生活自立支援事業や成年後見制度について随時法律の内容を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の読み上げを行い理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一度の訪問時や年二回の家族会で要望等がないか確認している。お便りを二ヶ月に一度発行し日々のご様子を報告。また、今年度からアンケート調査を実施し、改善点を速やかに対応した。	利用料の納入は原則、ホームに持参していただくことで家族とのふれあいが増すなど工夫されています。また、年に2回の家族会ではほぼ全員の家族が出席されて、意見の交換や提言を頂きながらホームの運営に反映しています。さらに、独自のアンケートを行いながら家族の思いや意見などの掌握に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議を開催。管理者は必ず出席し、業務やケアの改善等話し合っている。日々の勤務の中でも職員から運営に関して意見や提案があった場合は会議で話し合う場を設ける等聞き流しにならないよう努めている。代表者はほぼ毎日ホームへ顔をだして、意見や提案をしやすい環境づくりができています。	管理者も加えた職員会議は毎月1回の開催ですが、些細な気付きなど活発な意見交換が行われています。職員みんなが利用者の暮らしを守ろうとする基本姿勢がしっかりと根付いて、風通しの良い会議となっています。また、代表者も毎日わずかな時間を活用して利用者として過ごしていますが、職員との一体感がとても良い雰囲気作りとなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回職員会議にて意見提案を求め条件整備に努めるとともに、人事評価を行い面談をして職員が思っていることを話せるような場面をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に勉強の機会を持てるように研修会等スケジュール調整をしている。また、職員が順番に講師役を担い、自己研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区の包括主催の勉強会、厚別区管理者連絡会議の研修会等に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や普段の生活の中で行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時・来訪時・家族会等にて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との話し合いを行い、ニーズが高いものを優先して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりから本人ができること、できないこと等観察した上で、自尊心を傷つけないような関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合い、双方の意見を反映できるように希望や要望等を聴いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のスーパー等の外出やご友人との面会が継続して行われ、馴染みの関係が途切れないように支援をしている。	ホームは住宅街にあり、散歩での近隣住民との挨拶は習慣となっており、職員はこの習慣を大切にして継続支援をしています。また、近くのスーパーでの買い物は利用者の楽しみの一つであり、馴染みの関係が途切れない継続的な支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や和室の共有スペースに孤立しないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談の体制はとっているが、実際にそのような事がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族より情報提供していただき、意思表示が困難な利用者には、簡単な言葉遣いで理解に努め、利用者本位に支援している。	インテーク(初期相談・面談)を大切にして、得られた情報を職員みんなで共有することとしています。また、家族からの情報やホームでの暮らしの会話から、些細な事柄も把握し利用者本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より情報提供していただき、意志疎通が図れる方は日常会話の中からさりげなく聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時やカンファレンス等で行っており、一年ごとに更新している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン更新時に家族、ご本人等のニーズや希望を聞き取り等で行い原案を計画作成担当者が作成。原案を基にカンファレンスを開催し、職員全員で再検討する。	プランの作成には原案を家族などに説明しながら意見なども取り入れて、利用者にとってより良いプランの作成に努めています。また、アセスメントでの課題の分析や日常のモニタリングは細やかに行われていますが、日々のケース記録ではプランの概要が確認しづらく連動性に欠ける傾向にあります。	日々行われる支援の中で、ケアプランを意識したケアの部分は、利用者の暮らしを支える面でも大切なファクターであり、ケース記録の中で重要な部分と思慮します。利用者の暮らしを支えるプランをより有効にするため、記録用紙の改良を含めた取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に毎日記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向、家族の希望を踏まえ対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防団との情報共有、厚別消防署と連携し避難訓練を実施している。また、地域で開催される行事へ参加し、ご本人の力が発揮できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により主治医を決定している。基本的にはお任せなのでホームが紹介という形。2週に一度の訪問診療、1週に一度の訪問看護及び訪問歯科にて健康管理に努めている。	家族と相談しながら、従来のかかりつけ医での継続受診を支援していますが、最近ではホームの協力医療機関での受診が大半を占めるようになっていきます。協力医の訪問診療に加えて、毎週行われる訪問看護師による健康管理は家族の安心を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護の際日常の変化等について相談、報告している。緊急性が高いものは電話連絡。訪問看護師からも必要に応じて主治医へ報告されている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を提供。退院時サマリを受け取っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴う対応指針を説明させてもらっている。看取りに関してはできることとできないことを説明し、ご家族の希望に沿ってホームでできる限りの対応をする。	入居時に重度化や終末期に向けたホームの指針を説明し同意書が作られ、家族とホームが一体となって終末期に向けた話し合いが続いています。これまでにホームでの看取りも体験しており、職員はターミナルケアへのスキルの向上に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域消防団に依頼し、救命指導を受けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日常自主点検表、防災訓練、消防団との意見交換により災害に備え、地域住民の方にも運営推進会議を通じて取り組んでいる。避難訓練には地域の方にも参加いただいている。電話連絡体制も実施。	消防署の協力を得て防災訓練など緻密な関係維持で、利用者の安全を守ろうとする運営者及び職員の姿勢を強く感じます。スプリンクラーのいち早い設置、日常の自主点検及び近隣住民への働きかけなどに努めています。	近隣住民の理解の下、協力支援の輪が広がりつつありますが、緊急に際しての住民の役割などを明示したマニュアルが不足しています。至急作成して住民に提示しながら協力要請をする取り組みが期待されます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前を呼ぶ際、基本は～さんで徹底。個々や場面に応じて愛称等を用い、言葉かけをしている。また、個々の性格、職員の性別、年齢に応じたコミュニケーション技術で関わっている。	職員は、人生の大先輩である利用者との会話の中から教えを享受したいという姿勢が垣間見えます。耳元での静かな会話が行われ職員のスキルの高さが感じられます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人やご家族の意向に沿い、職員の働きかけから自己決定できるような場面づくりを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望があった際は可能な限り支援している（入浴、散歩、買い物等）。生活歴から好きなことができるように職員が率先して働きかけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の活用や衣類の選定ができない方にはご家族から好きな色等確認しながらご本人の好きな格好ができるように支援。ご家族もご本人が好きな衣類を購入してくれる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り自己摂取できるような働きかけを実施。本人の好みにも対応し、行事等では何を食べたいか聞きとり、食の楽しみを持ってもらえるよう配慮している。食材手配の担当者がご本人の嗜好にあわせてメニューを作成。	管理者の長年培われてきた食事に対する思いがこもった献立により、食事が提供されています。食事介助が必要な利用者、楽しく頂いた後の下膳などのゆったりとした利用者の暮らしを覗うことが出来ます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、偏りのない食事を提供している。水分チェック表や介護記録で食事・水分摂取量を把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。定期的に訪問歯科を利用して口腔内の状態把握に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間おむつ利用の利用者でも日中はリハビリパンツを使用し、排泄チェック表を活用してパターンを把握すると共にさり気ない声掛けや誘導を行っている。日中は全利用者がトイレを使用した排泄を行っている。	介護度のレベルが平均して4.3と高くなっていますが、日中のオムツ依存を避けてトイレでの自主排泄を支援しています。職員による排泄パターンの把握によりさりげないトイレへの誘導が継続されています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便の状況を把握。状況によっては医師との相談により下剤を服用。更には食事の工夫もしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴を楽しんでもらっている。希望の方は曜日関係なくほぼ毎日入浴している。入浴を一層楽しめるように入浴剤を使用。手摺の利用や職員の支援により安心感を持って入浴いただいている。	入浴に際し、全介助が必要な利用者もいますが、職員はできるだけ浴槽での入浴を楽しんでいただくため、懸命の努力が継続されています。少なくとも週2回は入浴を楽しんでいただくこととし、毎日入浴される利用者もいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室やソファー等ご本人の希望にお任せしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士の意見交換やお薬表に変更があれば都度確認して用法等の理解に努めている。また、記録内のチェック欄を活用し、脱薬のないようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好物をご家族に確認し、機会があるごとに提供している（コーヒー、パン、海産物、お菓子等）。残存能力を活かした役割として洗濯物干し、洗濯物たたみ、裁縫等自発的に行動されるよう関わっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブ、買い物へ行っている。その他にも町内行事にも可能な限り参加をしている。また、外出困難な入居者さんはホームの庭で日光浴や花壇を眺めたり、手入れ、畑の作物の収穫を行っている。日中は転倒予防体操やボール遊びを行い、外出しない日にも活動できる場面づくりをしている。	日常的な散歩やドライブ、町内行事への参加など、できるだけホームでの閉じこもりを防ぐ支援が行われています。夏季には菜園での作業、冬季間は足腰を鍛えるための屋内運動などが楽しい雰囲気の中で行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理可能な方はお小遣いとして個人管理している。管理困難な方については家族と連携を図りお小遣いとしてホームでお預かりさせてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人やご家族の希望により自由に使用できる状況にある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は共用スペース、2階は各居室で移動ツールとしてエレベーターと階段を利用できるようになっている。共有空間には季節にあわせた飾り付け、座卓、ソファ、いつでも休めるようにベッドもあり、適切な温度管理のもと快適に自由に過ごせる空間作りを行っている。	建物自体、一般住居を改造して作られたホームで、至る所に家庭的な雰囲気を残して暮らしをより豊かなものとしています。1階の床暖房により暖かなリビングと食堂、使いやすい厨房、また、和室の設えがより家庭的な雰囲気をかもし出しています。階段を含みリビングが吹き抜けのように開放感を感じます。天井の照明器具など以前の設備がそのままに使われ、温かな光が注いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意思を尊重するよう配慮を行っている。食事の際の座席、ソファ、和室、ベッドなどで思い思いに過ごしていただけるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具、仏壇などがあり、ご本人やご家族と相談をし、それぞれが使い勝手良く工夫をされている。ご家族の写真や手作りの作品などを飾っている方もおり居心地良い空間作りを行っている。	居室は2階にあり、いずれもパネルヒーターにより温かな、しかも安全な居室となっています。持ち込まれたベッド、馴染みの家具、調度品、壁を賑わす家族の写真、手作りの作品などが潤いのある生活をより豊かにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるように手すり、エレベーターやトイレ等には場所確認がしやすいような表札を設置してご本人の機能に合わせて対応を行っている。		